

随 筆

街道を歩く(1)

鎌倉街道 二村山～岡崎

佐々木 教祐

1. 街道への興味の始まり

ウォーキングを楽しんで道を歩くうちに、道幅が6m～30mで側溝や街路樹もあり、舗装もされている直線道路で総延長6300kmのハイウェイが、今から1300年も前に作られていて、その遺構が発掘されるとテレビの報道を見て、古い道に興味を持つようになった。この奈良時代のハイウェイは律令国家と呼ばれる強大な中央集権国家をめざした天智、天武、持統天皇の時代に計画された山陽、山陰、西海、東海、東山、北陸、南海道の7区分である。この「道」とは道路ではなく現在の北海道の「道」と同じ行政単位である。このほかに都に近い五カ国を畿内とした。律令に定められた都と地方(7区分)とを結ぶ「駅制」という緊急通信制度に則って定められた道路が駅路(古代のハイウェイ)である。この駅路には30里(約16km)ごとに駅家(うまや)が置かれ、駅家は正式な使者(駅使といひ「駅鈴」という鈴が与えられた)の宿泊・食事・乗換馬などを用意することが役目であった。三河を通る東海道は中路に分類され、駅馬は10匹が置かれていた。この古代のハイウェイを探してたどることはできないので、近くを走る江戸時代の東海道を時々歩いたが、それ以前に使われた古道・鎌倉街道の遺構や伝承が残っている所があることを知り興味を持った。この鎌倉街道(京鎌倉往還、鎌倉時代の京都と鎌倉を結ぶ道)の資料を図書館で探し、それを参考に古い神社やお寺などをたどることにした。歩いてみて鎌倉街道は江戸時代の街道と比べ標高が少し高く、丘陵地帯を選んで通っているように思われる。鎌倉時代からある神社仏閣と伝承地を地形などを考慮して結んだ鎌倉街道を現在ある道路に重ねて歩くことは、地図から想像した風景と比べ思わぬ発見もあり修正を重ねながら歩くのは、定まった旧東海道を歩くよりははるかに楽しいウォーキングである。一度歩くだけでは見落としがあり、ほとんどの所は2、3度足を運ぶことになった。

三河の駅家(三河の国)

両村駅－鳥捕駅(宇頭付近)－山豆奈(山綱)(山中町付近)－三河国府(国府付近)

2. 紀行文から見た宿場

鎌倉時代に入ると、東国の中心になった鎌倉には、移り住む公家も現れ、京都と鎌倉の往来は年とともに盛んになった。平安時代の半ば過ぎから始まった社寺参詣は、武士の間にも広がり、室町時代になると遠くの霊山霊場に向かう旅人の中には、庶民の姿も見られるようになる。諸国の大名の城館を訪れる貴族文人や連歌師も多くなりさまざまな旅の記録が現れるようになった。三河地方の平安時代から室町時代までの紀行文の中に見られる宿場の名前を次に書きだした(京都→鎌倉方向順の地名で、mm/ddは宿場に宿泊月日)。

- ・明日香井和歌集 1221年以前

八橋－矢作宿－宮地山－火打坂－高師山－白須賀

- ・海道記 1223年

4/7 萱津－4/8 矢橋(矢作)－4/9 豊河(豊川)－4/10 橋下(橋本)－4/11 池田－

- ・東関紀行 1242年

8/14 柏原－8/15 杭瀬川－8/16 熱田の宮－八橋－矢作宿－8/17 赤坂宿－
本野川原－豊川－8/18 橋本－

- ・宗尊親王下向記 1252年

境川－矢作－宮地中山－豊川－大岩

- ・十六夜日記 1279年

10/19 一宮の杜－熱田の宮－二村山－10/20 八橋－宮地の山－10/21 渡津－
高師の山－浜名の橋－10/22 引馬－

- ・覽富士記 1432年

八橋－矢作－山中－八幡－今橋－大岩

- ・実堯記 1563年

八橋－矢波木－作岡－山中－赤坂－渡津－今橋

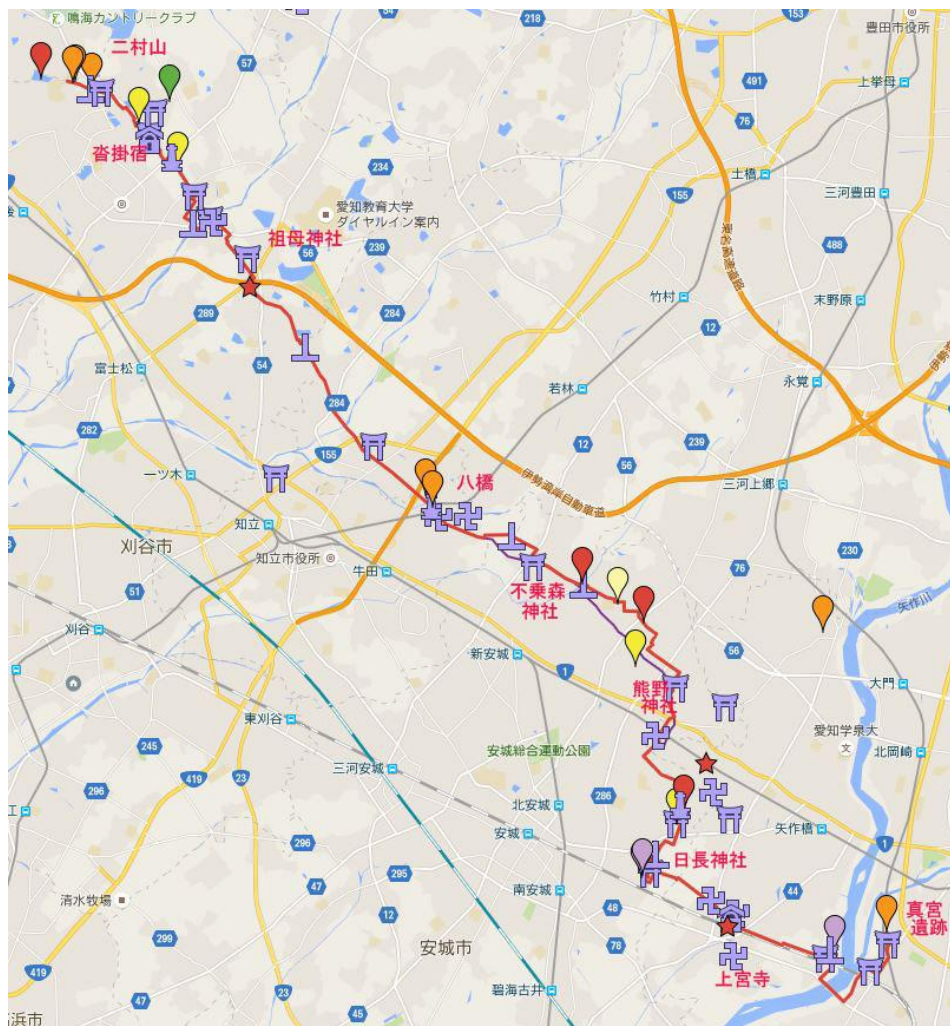
3. 二村山～岡崎

豊明市の保健衛生大学の駐車場の入口から山に入って細い道を登るとそれが歌枕(和歌の題材とされた日本の名所旧跡のこと)で有名な二村山で、頂上には源頼朝の歌碑と鎌倉街道と書かれた石碑がある。この山は標高 71.8m で豊明市の最高地点であり、眼下に広がる濃尾平野や岡崎平野とかなたに猿投山、伊吹山、御嶽山までも一望できる景勝地と平安時代から知られ数多くの歌や紀行文の題材にされてきた。ここから在原業平の「かきつばた」で有名な八橋の方向に進むと杳掛の宿があり、青木地蔵からの道をまっすぐに進むと「大久伝八幡

社」があり、境内の案内には南 30m の所を鎌倉街道が通っていたとある。この神社の扁額は池大雅がこの地に逗留中に揮毫した記されている。境川を渡る境川橋まで回る途中に、飛鳥井雅世が 1432 年 9 月にこの地で読んだ和歌「それと聞く しるしばかりかさかひ川 ほそき流は 名にながれても」の歌碑が立っている。境川橋を渡り三河に入り、大久伝八幡社からの延長線上の堤防下に酒井神社と曹洞宗の永福寺のある部落がある。つぎの鎌倉街道の伝承地は刈谷市東境町にある祖母神社で、境内西側にある鎌倉街道跡は雰囲気を残している。神社前の道を進むと伊勢湾岸自動車道をくぐり、刈谷市富士松図書館のすぐ東の道を抜けて住宅地の中の最初の道を東に曲がり、道なりに行くと竜ヶ根池の縁を通り、さらに進むと工場の中の狭い道に「鎌倉街道伝承地」の石碑がたっている。この工場の先代社長が街道を残すために工場を分断させたとのことである。この道は台地を選びながら道なりに進むと伊勢物語で有名な八橋に出る。まず逢妻男川を渡る前に道から一筋左に入ったカキツ姫公園の中に「落田中の一本松」がある。この松があった場所は業平が「から衣きつつなれにし…」と読んだ場所と伝えられている。少し行くと名鉄電車三河線を渡る前の左側に業平塚があり、寛平年間（889～897）に在原業平の骨を分け、この地に塚を築いたと伝えられる。小高い丘の上に、業平供養塔がある。踏切を渡るとすぐ右手に、根が 2 m ほど持ち上がっている「根上りの松」がある。安藤広重の浮世絵「東海道名所図会」のモデルといわれ、松の根元に「鎌倉街道の跡」の碑があり、背面には、阿仏尼の「十六夜日記」の一説が刻まれている。さらに進むと道の右手に、在原業平の菩提を弔うための業平塚が築かれた折、その塚を守る人の御堂として創建されたと伝えられる在原寺が見える。境内には、杳掛よりこの寺に入った兼子義玄が芭蕉の流れをくむ俳人であり、近在俳人の宗匠となり、数多くの門人の俳諧指導にあたった関係で義玄の句碑・山頭火の歌碑など数多くの碑がある。有名な「かきつばた」の花は、街道から少し離れた無量壽寺（704 年開創）にかきつばたの庭園があり花の時期には大勢の観光客が訪れる。八橋の町を出たところで北に 1 本道をずれて台地の畑の中の道を進むと「花の瀧伝承地」の碑が道の分岐する間に挟まれるように立っている。今は畑ばかりで池も菖蒲の面影もないが、石碑には「この伝承地が街道沿いの菖蒲池地内にあり、街道はここから不乗森神社の北西を通り、尾崎の熊野神社に至る」と記されている。不乗森神社の創立年代は、第六十三代冷泉天皇の御代（九六八年）近江国坂本村（大津市坂本町）に鎮座まします日吉大社東本宮の御祭神大山咋命の御分霊を觀請して奉齋申し上げたと伝えられる古社である。昔より鎌倉街道に沿って往来する人々はうっそうとした社頭に下馬し旅の安全を祈願して通行し

たので、“のらずの森”と云われました」と刻まれている。神社に入る前を用水沿いに東へ進むと猿渡川を渡る。この橋は宮橋といい海道記に書かれた宮橋がこれだと橋の側に建つ石碑に書かれていた。ここから少し南にカーブしながら尾崎の熊野神社に至る。この神社の案内には、「街道はここで右にまがり、南東へ下っていったのでこの神社の森を“踏分の森”と呼んでいる。ここより街道は西別所町を通り、山崎町に出て、岡崎市新堀町へ向かい、大和町桑子（旧西矢作）へと通じていた」と記されている。ここから旧東海道と名鉄本線を横切り南下し宇頭観音を経て、三河万歳を全国的な芸能に高め、徳川家康の庇護のもと三河の万歳師を統率して1597年この世を去った大行日吉法印を祀るお堂（お墓は近くの畑の中にある）を通り、別郷廃寺の側を通り南下する。別郷廃寺から出土した瓦には、七世紀後半に建立された西三河最古の寺院、北野廃寺（岡崎市）から出土する素弁六弁蓮華文軒丸瓦があり、別郷廃寺は、北野廃寺の建立とさほどかわらない時期に建立が開始されたと考えられている。ここから碧海台地の東裾沿いに進み、「高木城跡」の石碑を左に見て、さらに進むと日長神社に至る。創祀年代は、不詳だが、社伝によると、天長年間(824-32)であるという。すぐ近くには堀を巡らせた山崎城跡があり、この城は、矢作川右岸、碧海台地の東端に位置している。北側は谷地形で、東側は沖積地に面している。ここから平地に下り、岡崎市新堀町、桑子の妙源寺を通り渡町の渡城址を通り船で矢作川を渡って、岡崎に行ったと思われる。妙源寺は文暦2年(1235)、親鸞聖人が関東より帰京の際、桑子城内の太子堂(柳堂)で説法をされた。教えに感化された領主安藤薩摩守信平は弟に城を譲り出家して正嘉2年(1258)この寺を創建した。またJRを越えた上佐々木町の上宮寺は、宇治川先陣争いで有名な佐々木四郎高綱の兄の佐々木三郎盛綱がこの寺に入っている。三河の大河矢作川は氾濫を繰り返していたのでこのあたりの道筋は定まっていなかったと思われる。矢作川の岡崎側には、真宮神社・真宮遺跡があり、渡城のあたりから船で矢作川・乙川を一挙に渡ったと思われる。岡崎市誌は「三河旧事」の内容から、真宮神社は第13代成務天皇(131~190)の時代に創立され、第28代天皇宣化天皇(535~539)の皇女・小石姫命が紀州から移り治められ、6人の兄弟の産石を真宮の神と祀ったことから当地を「6石」と称したが、元暦元年(1184)から六名に改められたと紹介している。矢作川付近の鎌倉街道については、宇頭から南下せずそのまま真つすぐ東にのびて東海道に近い道を考える人もいる。

私の歩いた鎌倉街道・二村山～岡崎まで



(名古屋大学名誉教授)